

今年も4月28日・29日の2日間、附属校新任教諭APU研修が実施され、この4月から各附属校に着任された新任の先生方がAPUを訪問しました。APU研修は、附属校の教員が自ら「児童・生徒に『APUの魅力』を語れるようになる」ことを目標とし、今回で9回目となります。

APU通信では、今号よりリレー形式で、『教員の視点から見たAPU』をお届けします。

なお、2014年度APUオープンキャンパスが①7/21(祝月)、②8/3(日)、③11/3(祝月)に開催されます。オープンキャンパス専用ツアーも受付開始しました。

詳細は、[APU mate.net](http://www.apumate.net) で検索して、「イベント情報」のページをご覧ください。

[http://www.apumate.net/event\\_info/opencampus.html](http://www.apumate.net/event_info/opencampus.html)

# APU探検！

2014. 4. 28～29 立命館小学校 伊良知貴子

## 大分のマチュピチュAPUは、Little World

大分県別府駅からバスで30分、山の頂上に巨大なキャンパスが現れました。あいにくの雨だったので、雲の中を歩いているようでした。世界84カ国から留学している国際学生が2,466名、国内学生(日本人)が3,130名、合計5,596名の学生が学ぶ、「小さな世界」と言っても過言ではない日本離れしたキャンパスです。



### 世界と戦う人材ではなく、

### 世界を味方にする人材を育成するAPU

3つの「50」というキーワード「国際学生50%、学生の出身国・地域、50カ国・地域以上、外国籍教員比率50%以上」という環境の中で、国内学生と国際学生が授業や課外活動、APハウスでの生活などで交わり合うような仕組みや仕掛けが意図的に設定されており、国内学生と国際学生のどちらもが、その環境を生かすことができるかどうかは、自分次第であるということをよく認識していることがすごいと思いました。主体的にどの学生も、それぞれが学ぶ意味や将来への夢をもっており、高い異文化受容力、国境を越えたコミュニケーション力を身につけた優れたグローバル人材として、国際社会にどのように羽ばたいていくのかがとても楽しみです。

### 施設も充実

一年時にはAPハウス(国際学生寮)に入ることができます(入寮選考あり)。国際学生と共同生活を送り、多言語・多文化に触れることを通じて、互いに生活習慣や価値観の違いを知り、学び合い、助け合う心を養っていきます。



図書館はいつも満員です。学生の真剣度が違います。



### インターナショナルな学食

多国籍な学生がいるので、学食のメニューを見るだけでも国際色豊かです。一番人気は、タイカレーだそうです。



グループワークが多いので、こんな部屋がたくさんあります。予約すれば借りられます。





## ■ APUとは？

大分県別府市に建てられた、「立命館アジア太平洋大学」です。しかし、APUは「よくある日本の大学」とは到底言えない大学であり、就職実績や企業からの評価も高い、日本でも有数の特色豊かな学校です。附属校の生徒は、一定の成績基準をクリアすれば進学できる権利を持っています。附属校の生徒として、魅力をぜひ知っておきましょう！

### ●日本にいながら留学体験！

APUのキャンパスを歩いて出会う学生——授業教室へ向かう学生、図書館で勉強している学生、食堂でご飯を食べている学生…学生の約半数が「国際学生」です。また、教員も半数が外国籍！授業は日本語と英語の2か国語で行われています。まさに、日本にいながら留学をしているかのような環境で学ぶことができる画期的な大学です。例えば、食堂から聞こえてくる会話は、日本語、英語、タイ語、中国語…どちらかが片言でも国を超えて友情を深め語り合っている姿は、これから世界にはばたく学生にとってかけがえのない刺激的な環境といえます。



#### ～国際学生と教員の出身国、主な人数～

主な国名	国際学生	教員
中華人民共和国	593	5
大韓民国	520	4
ベトナム社会主義共和国	328	2
インドネシア共和国	209	3
アメリカ合衆国	56	17
オーストラリア	5	7

**国際学生 2,466 名、国内学生 3,130 名  
 APU 学生合計 5,596 名！**

### ●APハウスで生活もともに

APUには国際学生と国内学生が共に生活できる「APハウス」という大人気の学生寮があります。一つの部屋を2人でシェアすることもでき、異文化交流の大きな機会となり、友情を深めることができます。

## ■ APUの魅力

### ●衝撃！人生が変わる学びの場

私が初めてAPUを訪問した今回、学生のプレゼンテーション、国際学生と留学経験のある国内学生との座談会、授業体験などの貴重な機会に恵まれました。そこで私が感じたのは、「日本にこんな大学があったんだ！」「学生時代に、もっと自分の世界を広げたかった！」「自分も入学したかった！」というほどの**衝撃体験**です。「この大学に来ていたら、絶対に人生が変わっていただろうな…」と何度も思いました。日本にいながら、半数が国際学生。大人になった今でも魅力を感じずにはいられない、素晴らしい学びの環境がありました。



### ●確信と誇りに満ちた学生の輝き

APUの学生を見ると、APUで学んでいることに**確信と誇り**を持っていることが表情とお話から大いに伝わってきます。例えば、印象に残ったのがパワーポイントを使ったプレゼンテーション。用意されていることの方が多い「**原稿**」は、**もちろんない！**不安はないのか？うまくまとめられるのか？しかし、**それを当たり前のようにやってのけるのがAPUの学生**。その秘密は授業スタイルにもあるようです。「与えられたことを学ぶだけ」ではなく、「自ら考え、仲間と意見を共有し、答えを発見していく“アクティブ・ラーニング”」。日々の先進的な授業で鍛えられた結晶です。自分で見つけ出した考えが、教えられたものではなく「**自分の考え**」として詰まってくからだと、と私は思いました。



**百聞は一見にしかず。附属校生としてこの素晴らしい環境を知らなくては損です！自分の進路発見のためにも、まずは一度行ってみましょう！**

## APU: A World in the Clouds

Located in the mountains above Beppu, Ritsumeikan Asia Pacific University offers students an opportunity that is unique in Japan. Here they can set their sights on the larger world beyond Japan and beyond Asia, gaining experiences that will carry them beyond their college lives and into careers that can have a greater effect on global society.

The university itself is a short bus ride from the city of Beppu, and is surrounded by mountains and forests. Here, students can enjoy the beauty of nature and get away from the high-pressure distractions that are found in urban universities. Students can live on-campus in the AP House dormitories, where they can experience a safe and active campus life to the fullest. What's more, they can meet and get to know their classmates in a truly international environment.

Nearly half of the students from APU are from other countries, giving Japanese students a rare chance to live with and get to know people from countries and cultures other than their own. This intermingling of nationalities helps to broaden students' views on the world, and has led to many APU graduates becoming involved with international business, politics, and aid organizations. Students who come to APU are given a chance to know the world – not from a textbook, but from the people who live there. The school encourages students to become not just bilingual in English and Japanese, but to experience the languages (and food and customs) of their classmates from around the world.

APU's strong focus on multicultural education is perhaps its strongest feature. Not only does it provide a rich and engaging student life, but it also stresses the importance of active learning at the school. Students will become responsible for not only their education, but for their everyday lives. Students here are encouraged to try new things, to take risks, and to make mistakes in the knowledge that those mistakes will show the way to better learning.

Ultimately, graduates of APU become ambassadors to the rest of the world. Both Japanese and international companies look to APU to hire bright, ambitious students. Graduates have the chance to go out into the world and make a difference there, whether it's working in international entrepreneurship, joining an NGO to aid poor youth in developing countries, or staying here in Japan to bring their home country closer to the international community. The experiences you gain at this university will follow you for the rest of your life, and the relationships you build could one day very well change the world.

Chris Gladis

IB Literature, Theory of Knowledge

Ritsumeikan Uji Junior & Senior High School

# APU から世界へ

立命館中学校・高等学校 野々村 優

4月27日(日)から4月29日(火)まで、大分県別府市にあるAPU(Ritsumeikan Asia Pacific University)へ行ってきました。その地は、実に世界的で様々な人種の学生がいました。まるで小さな地球のようです。祝日にもかかわらず学習する姿に、本気で自分の人生をみつめ、世界のために自分自身に何ができるかを考え、悩み、葛藤し、自らの人生を懸けて生きている学生の意気込みを感じました。APUの魅力について紹介します。

## APUの授業の魅力について

APUでは、少人数によるディスカッション形式の授業も実施されています。英語基準の学生と日本語基準の学生が、あるテーマについて話し合います。英語や日本語が飛び交うだけでなく、文化の違いによる意見の相違も日常茶飯事です。しかし、コミュニケーションは言葉を超え、相手の思いを感じ、異文化を理解できるようです。

### 【社会評価】

2012.7.6の日本経済新聞によると、人材教育で注目している大学ランキングは、1位：国際教養大学(秋田)、2位：東京大学、3位：APUとなり、早稲田・慶應・立命館大学・阪大・京大など多数の有名難関大学よりも上位となっています。

世界84カ国からの  
国際学生と過ごす本気の  
の学生生活がAPUに  
はあります

### 学生の紹介コーナー

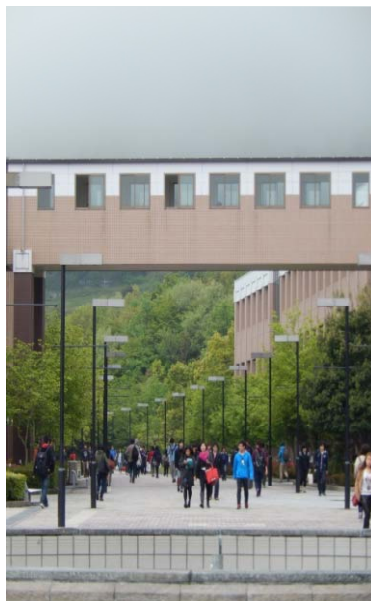
国際経営学部3年生からAPUについて聞きました。すると、  
【違い】をテーマに、3つのことを話してくれました。

[私と外]入学当初、APUには違いがあふれていて、テンションがあがり、その後インドへ行き、自ら進んで外の世界を知り衝撃を受けました。

[私と内]MIRAIRO(株)という会社で障がい者に関する仕事のお手伝いをしています。日本人の3人に1人が生活になんらかの不自由を感じています。バリアフリーではなく、バリアバリューという考えで活動しています。

[私と周り]私たちは、人と同じであることの方が少ないと思います。自分を変えたいと思いAPUを選択しました。これらを踏まえて、世界と戦わず世界を味方にできる人材になりたいです。

<最後に>今回のAPUへの訪問は、これからの未来を想像する全く新しい考え方に触れることができる貴重なものとなりました。



## APU の魅力を 5 つ紹介させていただきます

### APU は小さな世界だ！

APU の第一印象は海外の大学に来たかのような。84 国からの国際学生（留学生）2,466 名が学んでいる。2 人に 1 人が国際学生だ。学生寮（AP ハウス）では互いの生活習慣や価値観の違いを知ることができる。そこには学び合う学生の姿が見えてきた。



まるで海外に来たよう・・・  
国際学生がいっぱいです

### APU には成長できる何かがある！

APU の学生に直接話を聞いてみると、『大学時代に成長できた』と断言する。それは、自らを異質な環境に身を置くことで、自分が変わらざるをえなかった。それだけではない。成長できる先輩や友達との出会い、成長できるきっかけが溢れている。それは、留学制度であり、国際交流ボランティア、サークルなどの取り組みである。真剣に取り組む環境が成長の鍵となるようだ。

### APU の学び方はすごい！

APU の施設はどこも満席。図書館、マルチメディアルーム、ジム・・・学生が大学をフルに活用している。また、学び方が本物。目が違う。真剣に学ぶ国際学生の姿により、国内学生（日本人学生）の意識も上がる。



真剣に学ぶ学生の姿  
が印象的

### APU 学生の笑顔がいい！

どの国際学生に話をうかがってもこやかに応対してくれた。APU に来た満足度は非常に高い。コミュニケーションとは笑顔のことかもしれない。日本人学生の印象は？と聞いてみた。皆、『優しい』と答えてくれた。APU を選択した日本人学生も行動的で自分の意見の言える前向きな学生が多いようだ。

### APU は就職に強い！

就職率 98%。なぜ？彼らのコミュニケーション力は高い。語学ができるだけではない。大学時代に頑張ったことが語れる。大分まで企業がやってきてくれる理由が納得できた。

#### 感想

APU には二言語（英語・日本語）で学べる教育システムがあります。しっかり学生が学びあう姿が印象的でした。与えられた教育ではなく、学生たちが作り上げていく教育だと感じました。だから、学生たちが生き生きしているのだと思います。自分で考え、自分の意見をしっかり言える教育であり、ぶつかり合い成長できるのだと感じました。自分を成長させたい方、世界を舞台に活躍したい方にぜひおすすめします。四年後の自分が楽しみです。

立命館小学校 大橋輝子

# APU通信

立命館慶祥  
中学校・高等学校  
久保田 泰浩

## そこはどんなところなのか？

学生によっては「小さな世界」と評されることもあるAPU、「アジア太平洋」と名のつく通り、アジア圏からの留学生を中心に全学生の約50%が「国際学生」という大学です。こんな場所は日本中どこを探してもない、というより日本国内で比較をすることがそもそも間違いなのではないかと思わせてくれるようなキャンパスが、大分県別府市（の山の上）に広がっています。

なぜこんなにもAPUは海外の学生に人気があるのか？ その理由の1つは、日本語が全く話せなくとも「英語基準」で入学ができるというシステムにあります。

もちろん彼らの多くにとっては日本語を学ぶことも大きな目的のひとつですから、そのニーズを満たすために日本語の学習が山のように用意されています。対して「国内学生」（日本人の学生）に対しては、逆に英語をみっちり学びます。こんな環境を選んで入学してくるわけですから、最初から語学や国際に興味



のある学生がほとんどです。しかし、講義の中で相手をするのは、日本語がほぼ使えない国際学生。APUにおいて講義は「受ける」ものだけでなく、「参加」する形のもが多くあります。わかりやすい例を挙げれば、ディスカッションです。想像してみてください。日本語がほとんど通じない相手と、「子ども兵士の社会復帰を支援するにはどのような枠組みが必要か」について議論しろと言われたら、どうでしょうか？そしてその成果物を、やはり「半数は外国人」という聴衆の前でプレゼンテーションしなければならないとしたら…？



## 求められているものはなにか

こんな話を聞いて「そんなこと絶対したくない！」という人は、たぶんAPUには向いていません。実はAPUは、学生の育成に関して企業からの評価がとても高い大学です。秋田の国際教養大学、東京大学とも肩を並べるような評価です。しかし、それは「APUに入れば企業から評価される」というわけでは勿論ありません。上で紹介したような経験を積んで、そんな環境に臆しないようなメンタリティを持った人物が結果的に評価されているという話です。大学に行って「楽をしたい」と思っている生徒には薦められません。入ってからはとてもとても大変です。一般的な国公立大学に行くよりも、立命館大学に行くよりもずっと大変だと思います。

しかし、APUでしか得られない経験や人との繋がりが、間違いなく存在します。

英語を話せる人は、日本にも大勢います。しかし、国際社会で求められているのは、字幕なしで映画を楽しめる力ではありません。英語で「何か」ができる力です。英語で自らの考えを伝え、議論し、文化の壁を越えて共に何かを生み出す力です。見た目の「学歴」ではなく、自らが学んだ内容に誇りを持って語れる大学は残念ながら多くはありません。その一つが、ちょっと遠いですが、別府の山の上に確かに存在しています。百聞は一見に如かず、と言います。ちょっとでも心を動かされた人は、一度自分の目で見てみてはどうでしょうか？もしかしたら、思い描いていた進路が変わるかもしれませんよ。

# APU 通信

立命館守山中学校・高等学校

栢野 祐介

## 日本にいながら留学できる!!!

### そんな噂を耳にする APU。いったいどんな大学なのだろうか？

なぜ国内にいながら「留学」できるのか？「留学」をする事で変化するのは何か？それは日本ではない文化の中に身を置くこと。もっと言えば置かざるを得ない事であろう。それが可能であるのならば国内にいるとはいえ「留学」する事になるのである。APU ではその様々な文化のつぼが当然のように存在している。授業、日常生活…APU に関連する活動の中には必ず異文化との触れ合いを行う事になるのである。触れ合わざるを得ないといっても良い。そんな活動を通して APU 学生は「留学」をする事が可能となる。

一般大学が1年以下のショートタームでの留学を受け入れる事が主流である中、APU では、4年間の在籍する留学生の割合が他の大学に比べて多い。その結果として、大学在籍学生数の約半数を国際学生（海外からの留学生）が占めることとなる。そこでの授業はどうなるのか？アクティブラーニングが注目される中、APU においても少人数によるグループワークが数多く取り入れられている。しかし、一般大学のグループワークとは様相が異なってくる。それはなぜか？APU 学生の半数が国際学生であるためである。少人数でグループワークを行った場合そのグループの半数は国際学生となる。そのグループで活動をしていく以上、日本語で話す、という事はやっていけない。何せその行動をとる事によって、グループの半数とはコミュニケーションがとれないのだから。

もう一つの授業の特徴は、英語によって開講された科目の存在である。APU がここまでの国際学生を受け入れる事が可能となったからくりの一つにこの英語による科目の開講がある。すなわち、同じ科目が「日本語」「英語」のどちらの言語によっても受講する事が可能なのである。この言語選択は日本人だから、国際学生だからという縛りはなく、あくまで、学生の自由に選択することが出来る。したがって、授業に関しても英語によって受講する事が可能となり、英語に触れる機会を得る事が出来るのである。

最後に、日常生活について触れておきたい。日常生活もまた「留学」する事が可能となる。その大きな要因の一つに、APU の学生寮である「AP ハウス」の存在が挙げられる。国際学生を含めた1,000人以上の学生が暮らす AP ハウスは、小さな地球といっても過言ではない。そこで越境するためには、パスポートも、航空チケットも必要ない。学生の心一つで様々な世界へと旅立つ事が出来る環境が整っている。

大学生活、日常生活その両方が異文化で満たされた状態で送る事が出来る APU。

なるほど、確かにこの大学では国内にいながら留学をすることが出来るようだ。

# APU通信

2014. 5. 9  
立命館小学校 上野良

## APUの魅力大発見！！

### ○充実した教育環境

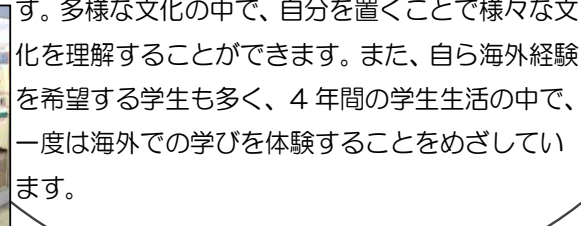
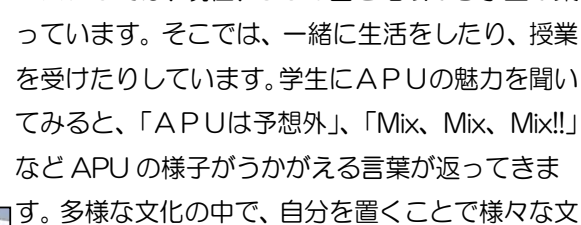
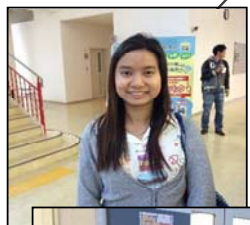


APUは、大分県別府市の緑あふれる好立地にあります。広々としたキャンパス、充実した図書館、そして、普段から国際交流ができるAPハウス…など、そこは、学生たちが、勉強に集中できる環境が整っています。

この恵まれた環境の中で、学生たちは、自分の夢に向かって、日々、努力を重ねています。



### ○真の国際交流



APUでは、現在、85の国と地域から学生が集っています。そこでは、一緒に生活をしたり、授業を受けたりしています。学生にAPUの魅力を知っていると、「APUは予想外」、「Mix、Mix、Mix!!」などAPUの様子があがえる言葉が返ってきます。多様な文化の中で、自分を置くことで様々な文化を理解することができます。また、自ら海外経験を希望する学生も多く、4年間の学生生活の中で、一度は海外での学びを体験することをめざしています。

APUを卒業した学生は世界で活躍し、評価されています。

「人事部の評価が抜群に高い大学8（プレジデント社/2012年10月15日号）」では、堂々の1位となっています。また、多くの一流企業といわれている企業の内定率も約36%となっています（ちなみに慶應義塾大学は、約43%〔2011年度〕）。これほど、評価が高いのは、APUでの授業の方法にヒミツがあります。

APUでは、国内学生と国際学生がグループを組み、授業を通してディスカッションを行います。そこでは、それぞれの考えや文化がぶつかり合い、様々な問題が出てきます。それを乗り越えて互いにどうすれば一緒に協力できるのか、相手を巻き込むにはどうすればいいのかを考えないと前に進みません。そうした人種や国境の壁を乗り越える経験をたくさんすることで日本人も一皮むけていくことになります。

そんな力が、自分の力を伸ばすことに繋がり、国際人として高く評価されることに繋がっているのではないのでしょうか。

